表紙no写真

今年7月、表参道とキャットストリートの交差点渋谷側に「ヨンデル」像が設置されました。東京のシンボルとなってほしいとの願いを込めて、堺屋太一氏を中心に渋谷エコタウンプロジェクト実行委員会が街への想い「人を呼ぶ」「詩を詠む」「季節をよぶ」などのさまざまな意味をもつ「よんでる」から名付け、彫刻家 吉野毅氏に制作依頼をしました。

ブロンズ製で高さは170cm、台座を含めても2.3mと身近なヨンデル像は、表参道の季節や行事に合わせて衣装の着せ替えなども検討されているとのこと。楽しみですね。（熊野）

編集後記

Voice秋号をお手に取って頂きありがとうございました。

朝夕に少しずつ秋の訪れを感じるこの頃、皆様はいかがお過ごしでしょうか。

秋号にぴったりな取材スポットを探して表参道を歩いてみると、5年前の入職間もない頃、勤務後に明治神宮に足を伸ばして夕陽で一面金色に染まった銀杏並木に感激したことをふと思い出しました。

のんびりと会話をしながらいつもと違う場所に足を運び、季節毎の美しい風景に心を動かすことも毎日の健康にとても役立つことではないかと感じております。

1年の中でも特に過ごしやすいこの時期、スポーツに芸術にと実りある秋をお過ごしくださいませ。（田中）

甲状腺疾患書籍のご案内

「よくわかる
甲状腺の病気」
著者：伊藤公一
定価：1,360円(税込)
発行：主婦と生活社

「甲状腺の病気」
速やかな回復のための最新知識
監修：伊藤公一
定価：1,360円(税込)
発行：法研

「甲状腺の
病気の治し方」
監修：伊藤公一
定価：1,260円(税込)
発行：講談社

「甲状腺の病気の最新治療
バセドウ病・橋本病・
甲状腺腫瘍ほか」
監修：伊藤公一
定価：1,470円(税込)
発行：主婦の友社

新刊

「図解 甲状腺の病気が
よくわかる
最新治療と正しい知識」
監修：伊藤公一・高見博
定価：1,470円(税込)
発行：日東書院

★いずれの書籍も伊藤病院1F売店で販売しております。ぜひ、ご活用ください。

発　行　2013年9月1日発行　第43号　伊藤病院広報誌委員会

ITO HOSPITAL
伊藤病院
〒150-8308　東京都渋谷区神宮前4-3-6
TEL　：03-3402-7411
FAX　：03-3402-7415
URL　：http://ito-hospital.jp

Voice

伊藤病院だより AUTUMN

2013年9月1日発行　第43号　東京都渋谷区神宮前4-3-6　伊藤病院広報誌委員会

「ヨンデル」像

病院からのおしらせ

当院は被災地支援に積極的に参加しております

伊藤病院　診療技術部部長　北川亘

◆甲状腺超音波検査の研修を受け入れております

東京電力福島第一原子力発電所の事故による小児甲状腺癌の発生が危惧され、福島県では東日本大震災当時18歳以下だった全県民に対して甲状腺超音波検査を実施しています(福島県県民健康管理調査)。

また、福島県および近隣の病院では、福島県県民健康管理調査の対象にならない方々からも甲状腺超音波検査を受けたいというニーズが高まっております。当院は福島県および近隣の病院から甲状腺超音波検査を中心とした臨床検査研修の依頼を受け、2012年1月から福島県南相馬市立総合病院をはじめ、多数の病院からの研修を積極的に受け入れております。

今回、福島県の財団法人ときわ会 常磐病院より、谷本哲也医師、秋山淳一放射線部技師長、飯田祥平さんの3名が当院の甲状腺超音波検査を見学されました。飯田祥平さんからごあいさつをいただきましたのでご紹介いたします。

財団法人ときわ会　常磐病院
健診・人間ドック担当　飯田祥平

この度は院長先生、スタッフの皆様、ご多忙中にもかかわらず親切、丁寧にご指導頂きありがとうございました。

甲状腺検査を受診される方の数が想像よりもはるかに多く、また福島県からも伊藤病院へ検査に来られている方もおり、改めて甲状腺超音波検査の重要性を痛切に感じました。

受付から会計までのシステムにおいても患者様第一思考に考えておられることが伺われ、とても勉強になり、今後の業務の参考にさせて頂きます。

福島県民は、原発事故から2年以上が経過した今でも、被ばくに対する不安を抱えたまま生活されている方が大勢いらっしゃいます。当院は福島県いわき市にあり、近隣地域住民の方々の不安解消のお手伝いができるよう、2012年4月1日から内部被ばく検査(ホールボディカウンタ)を開始して約6000名以上の方の検査を実施しました。内部被ばく検査を受けた方から甲状腺の検査は受けられないのですか？と最近この質問が特に多くなってきております。

当院では今後、伊藤病院で勉強させて頂いたことを活かし、甲状腺超音波を地域の方々に提供していけるよう体制を整えていきたいと思っております。今後ともご指導の程よろしくお願い致します。

今回は、誠にありがとうございました。

◆福島県県民健康管理調査に参加しております

当院は福島県県民健康管理調査の県外検査実施機関に指定され、福島県民の子供たちに甲状腺超音波検査を施行しております。また、福島県内では福島県立医科大学のスタッフが中心となり甲状腺超音波検査を行っております。しかし現状ではスタッフが十分とは言えず、全国から医師や臨床検査技師が甲状腺超音波検査を施行するためにボランティアで福島県に集まっております。

今回、当院内科國井葉医師と佐々木栄司臨床検査技師が、福島県いわき市で甲状腺超音波検査を実施してまいりましたのでご報告いたします。

福島県県民健康管理調査への協力は続いています

伊藤病院　臨床検査室　佐々木栄司

東日本大震災における原発事故後の福島県県民健康管理調査が今も行われています。事故後の18歳未満の検診対象者は38万人おられ、現在は約20万人が終了したそうですが、まだ半数の方が未検査で残っています。

私は6月5日に福島県いわき市の平第一中学校での検診に内科の國井葉医師とともに参加をしてまいりました。前日の夜いわき市に入り、当日午前9時30分から16時30分までで約630名の甲状腺超音波検査を6名の医療スタッフで行いました。写真は検診後に校門の前で記念撮影したものです。(体力的にも厳しかったですが社会貢献できた充実感を味わっていました。)

今回の医療スタッフ6名中5名は県外の医師や臨床検査技師(超音波検査士)でした。友人の福島県在住の技師からは「今も甲状腺超音波検査を行える人材育成が思うように進んでない」と聞いていますし、今後も他県からの医療スタッフ協力が必要とされているのが現状です。前号のVoice42号にも掲載させていただきましたとおり、当院では伊藤公一院長の方針と理解のもと多方面に渡る分野で震災支援を行ってまいりました。(県外甲状腺検査実施機関として、県外避難されている方のエコー検査も実施しています)

今後30年続く県民調査等に甲状腺専門病院に勤務している我々は地道に継続した支援を行っていく使命があると考えています。職場の業務調整など行いながら今年の秋から冬にかけての検診にまた協力させていただきたいと考えています。

今後も甲状腺専門病院として引き続き支援活動を行ってまいります。

病院からのおしらせ

医療の国際化に向けて

◆アジア太平洋内分泌会議

会長を務めた長濵外科部長(左)、伊藤院長(右)と中国 吉林大学中日聯誼病院 張広医師(中央)

APEC(Asia-Pacific Endocrine Conference：APEC)はアジア地域の内分泌疾患の研究や治療に携わる研究者や医師が一年に一度、アジア環太平洋地域の国に集まり、その研究成果を発表して交流を図る会議です。

第24回目となる今年のAPECは、当院の長濵充二外科部長が会長を務め、中国吉林省吉林大学中日聯誼病院の甲状腺外科医師たちの協力のもとに、中国大連で盛大に開催されました。当院からは5人の医師が参加し、2演題の発表をしました。

会議では、日本と中国の医師たちが内分泌の領域について日々研究している内容を英語で発表し、発表後には活発な質疑などが行われました。今回とりわけ注目されたのは、中国でも甲状腺疾患を病む方々が増加しており、日本とほぼ同じような検査方法や治療などが中国においても行われているということでした。発表や質疑などを介し、日中両国の治療方針などに対する理解を深め、お互いの優れたところを摂取することで幕を閉じました。

今後もAPECを通し、当院における研究成果などをより多くのアジア諸国に情報発信して参る所存であります。

◆ASIAN MASTERCLASS OF THYROID CANCERに出席して参りました

伊藤病院　外科医長　渋谷洋

講師として参加された綱谷教授(金沢大学医薬保健研究域医学系核医学)と渋谷医長(左)

去る2013年5月31日～6月1日の2日間に渡って、Samsung Medical Center(韓国ソウル市)において開催されたThe 2nd ASIAN MASTERCLASS OF THYROID CANCERに出席して参りました。この会議は、人種あるいは地域的な相違も含めて、アジア圏における甲状腺癌症例に対する疫学および手術、放射線、アイソトープ、分子標的治療の見地を広めることが目的で開催されています。

日本、韓国、シンガポール、マレーシア等から甲状腺専門医が一同に会して活発な質疑応答を行いました。

病院からのおしらせ

「精度保証認証施設」に認証されました

伊藤病院　臨床検査室主任　田中克昌

臨床検査室では、患者様に提供する臨床検査データの正確性を担保するために、毎日、精度管理を行なっております。

精度管理とは、採血してから検査結果報告までの工程において、検査データのバラツキを管理する仕組みのことです。例えば、精度管理用に作成された数値が分かっている管理試料を検査機器で分析し、作成された数値どおりの検査データが検査機器より報告されているか確認を行ないます。この管理試料が正しい値で報告されていれば患者様の検査データも正確な検査データとなるわけです。

当院の臨床検査室は、この精度管理の実施に加えて、臨床検査データの標準化、臨床検査技師の継続的教育などの項目が評価され、平成25年4月に日本臨床衛生検査技師会より「精度保証認証施設」に認証されました。(認証施設は平成25年度現在485施設)

臨床検査室では、今後も患者様に正確な検査データを提供できるよう、日々努力して参ります。

精度保証施設認証書

日本内分泌外科学会総会

第25回日本内分泌外科学会総会が、5月23日・24日の二日間に渡り、山形県で開催されました。

この学会は、甲状腺診療ガイドラインの作成や内分泌・甲状腺外科専門医の認定などを行っており、学術総会は甲状腺・副甲状腺をはじめとする内分泌疾患についての重要な情報発信と情報交換の場となっています。当院からも下記の演題を発表いたしました。

伊藤院長と杉野副院長は「甲状腺腫瘍診療ガイドラインの改訂に向けて」をテーマに開催されたシンポジウムで講演しました。診療技術や検査機器の進歩により、甲状腺がんの発見率が高まっています。これに対応して進められている臨床ガイドライン更新についての提言を行いました。伊藤公一院長はこのほかにも、「甲状腺癌の診断と治療」をテーマとしたシンポジウムでの講演や、学会が若手医師との交流の場として設定した「Meet the Professor」にも講師として招かれました。

また、ポスター発表・口頭発表におきましても当院の診療と臨床研究への取り組みが評価され、赤石純子医師、宇留野隆医師の両名が会長賞を受賞いたしました。

この度の学会では、実際の診療への取り組みから、甲状腺疾患の診療ガイドラインについてまで、当院から幅広く情報発信を行いました。

今後も学術的研鑽を積み重ね、日々の診療と情報発信に活かすべく取り組んでまいります。

伊藤公一院長

杉野公則副院長

北川亘診療技術部部長

鈴木章史医師

松津賢一医師

宇留野隆医師　　赤石純子医師

□ 発表　□ シンポジウム

伊藤公一院長	LigaSure Small Jawのバセドウ病手術への適	応拡大を望んで
	[シンポジウム]甲状腺悪性腫瘍登録の検討～	UICCとNCD、地域がん登録の比較
杉野公則副院長	[シンポジウム] 2010年版甲状腺腫瘍診療ガイ	ドライン"アルゴリズム"の問題点
北川亘診療技術部部長	甲状腺癌に対するvessel sealing system を	用いた甲状腺手術―従来法との比較―
赤石純子医師	45歳未満のびまん性硬化型乳頭癌症例について	の検討
鈴木章史医師	橋本病に合併したIntrathyroidal lymphoepithelial	cystの1例
宇留野隆医師	妊娠合併甲状腺乳頭癌手術の手術時期に関する	検討
	[シンポジウム]甲状腺未分化癌StageIVCに対す	るweekly paclitaxelの有用性と、新しい治療ストラテジー確立の試み
松津賢一医師	甲状腺乳頭癌術後の再発パターンから見た予後	不良症例の検討

病院からのおしらせ

大江戸内分泌手術手技懇話会で講演しました

5月11日に第8回大江戸内分泌手術手技懇話会が虎の門病院講堂で開催されました。この懇話会は甲状腺・副甲状腺、副腎をはじめとする内分泌疾患の手術手技について、東京の甲状腺専門病院や内分泌外科を専門にしている大学病院や癌専門病院などが集まり、多数の外科医が活発に討論し意見交換する場となっています。今回は"外科治療のこれまでの功罪と未来への展望"をテーマに多数の発表がありました。

当院からはシンポジウムとして北川診療技術部部長が"伊藤病院におけるバセドウ病の手術成績と手術術式の変遷について"を講演しました。当院でのバセドウ病手術治療の成績や手術術式を甲状腺亜全摘から全摘術に変更した経緯、また新しい手術機器を用いたバセドウ病手術の紹介や今後の展望についてお話しいたしました。発表後は活発な質疑応答が行われました。

「当院は開院以来バセドウ病患者様の手術を積極的に行っております。今後も最新の手術機器を用い、バセドウ病患者様にできるだけ負担の少ない手術ができるよう取り組んで参りたいと思います。」(北川)

日本外科学会学術集会ワークショップで講演しました

4月11日～13日に福岡県で開催された「第113回　日本外科学会定期学術集会」のワークショップにおきまして、伊藤公一院長と杉野公則副院長が講演しました。

日本外科学会は外科系最大の学会で、学術的活動とともに外科医療の向上によって国民の健康・福祉に寄与することを目的としており、外科専門医の認定や、治療成績向上のために国内で行われる手術をデータベース化するNational Clinical Databaseの設立などの活動を行っています。

伊藤公一院長は「甲状腺分化癌に対する131－I 内用療法の適応拡大」をテーマに、全国的にも数少ない甲状腺がん手術後の放射性ヨウ素内用療法について、当院における治療の実際について講演しました。

杉野副院長は「甲状腺濾胞癌遠隔転移例の検討―治療成績と予後因子―」をテーマに講演し、遠隔転移を引き起こした甲状腺濾胞がんについて、どのような治療方針をとるべきか、当院の治療成績を報告しました。

今後も、専門病院として甲状腺疾患診療についての情報発信を積極的に行ってまいります。

日本超音波医学会学術集会で発表しました

伊藤病院　内科　松本雅子

2013年5月24日から26日まで大阪国際会議場で、「第86回　日本超音波医学会学術集会」が開催されました。この学会は日常の診療で超音波に携わる医療従事者が参加する学会で、消化器科、循環器科、産婦人科、泌尿器科、体表、血管などの領域の医師だけでなく、臨床検査技師からも活発な発表がある学会です。今回のメインテーマは「超音波を活かす」で、それぞれの専門領域から多数の発表がありました。

伊藤病院からは、体表臓器の部門で3題の演題を発表してきました。

北川診療技術部部長が「当院での18歳以下の甲状腺超音波所見の自然経過についての検討～福島県県民健康管理調査判定に基づくA、B判定について～」を、國井医師が「87例の橋本病に合併した甲状腺乳頭癌の超音波所見」について、そして私松本が、「甲状腺腫瘍手術症例の術前超音波診断と術後病理診断の不一致症例の検討」について発表してきました。

これからも、日常診療で数多くの甲状腺超音波検査に携わるものとして、色々な患者様の超音波所見の検討を病院内だけでなく、院外に向けても発信していきたいと思っています。

北川亘診療技術部部長

國井葉医師

松本雅子医師

日本短期滞在外科手術研究会に参加してまいりました

伊藤病院　事務室　白濱正久

伊藤公一院長が世話人を務め、様々な領域の日帰り手術の学術的研鑽と経済効果を検討し満足のいく医療提供を通して社会貢献を目的とする日本短期滞在外科手術研究会(以下　研究会)の第9回学術総会に伊藤院長、渋谷外科医長とともに出席して参りました。

学術総会は6月7日から3日間の日程で開催され、血管外科領域、耳鼻咽喉科領域、ヘルニア領域等で行われている様々な取り組みの発表がありました。この度学んだことを、すでに実施している1泊2日の手術だけでなく、当院における入院治療全ての在院日数短縮に向けて生かせるよう努力して参ります。

また、当院では他病院に先駆け研究会認定の1名のDSコーディネーター※が在籍しております。

※DSコーディネーターとは：短期滞在手術を円滑・安全に進めるため、関わるすべての職種の調整役を担い、術前検査・基礎疾患・麻酔・手術術式・術後経過のすべてに精通している看護師のこと

病院からのおしらせ

欧州内分泌学会で発表しました

伊藤病院　外科　大桑恵子

2013年4月27日から5月1日までの5日間、デンマーク・コペンハーゲンにて開催された第15回欧州内分泌学会(European Congress of Endocrinoloty)に参加してまいりました。北欧の国デンマークは、陶器や玩具(レゴなど)が有名ですが、コペンハーゲンは運河に沿った100年以上前の彩り鮮やかな可愛い建物と、対照的に周囲には近代的なアーティスティックな建造物がそびえる歴史と近代がまじりあったような都市でした。

今回その都市で、内分泌に興味のある人々が集い最新研究の発表や講演が開催されました。内分泌をテーマとする分野は多く、甲状腺疾患や副甲状腺疾患はもちろん、糖尿病分野、脳神経外科分野、腎臓副腎の分野など活発な発表が行われ、最新治療・分子標的薬をテーマとした話は非常に勉強になりました。私は副甲状腺癌を対象に、診断や予後に関わる検査データを解析し発表してまいりました。一般に副甲状腺癌症例はとても少なく、データを熱心に見入る先生とのディスカッションも貴重な時間でした。さらに多くの方に研究の成果を見ていただきたいと現在論文執筆中です。

千駄木内分泌懇話会で講演しました

6月27日に日本医科大学で開催された、第32回千駄木内分泌懇話会におきまして、伊藤院長が特別講演を行いました。

「伊藤病院における甲状腺疾患診療の実際」をテーマに、バセドウ病・橋本病および甲状腺乳頭がんについて、治療方法の選択や当院で積み重ねてきた診療実績をご紹介いたしました。特に乳頭がんについては、当院独自の手術後25年生存率(93.8%)をお示しし、適切な手術によってよく治る病気であることをご説明し、より多くの方に手術を受ける機会をご提供するため、入院患者様の在院日数短縮化に向けた当院の取り組みもご紹介しました。

会場には内分泌疾患の診療に携わっている医師が多数お集まりになり、大変好評を得て終了することができました。

日本内分泌学会学術総会

伊藤病院　内科　岩久建志

2013年4月25日～27日、仙台にて第86回日本内分泌学会学術総会が開催されました。

日本内分泌学会学術集会は年1回開催され、我々の専門にしている甲状腺、副甲状腺だけではなく下垂体、副腎、膵臓、性腺などのいろいろなホルモンを分泌する臓器の病気や、糖尿病、肥満症、脂質異常症などの生活習慣病を専門に日夜診療、研究に当たっている日本国内の医療関係者が一同に集まり、最新の研究成果を発表し、活発な議論を行う場です。伊藤病院からも以下の医師が発表しております。

今後も国内外の学会に積極的に参加し、最新の知見に触れ研鑽を積み、患者様に最新でなおかつ安全な質の高い医療というかたちで還元できるよう努力してまいります。なお、学会期間中におきましては担当医師の変更に伴い、皆様にご迷惑をおかけして大変申し訳ございませんが、ご理解くださいますよう、よろしくお願いいたします。

演題名	発表者
当院における福島県県民健康管理調査判定に基づく18歳以下甲状腺超音波所見の検討 ～A、B判定の自然経過について～	北川亘 診療技術部部長
産後発症のバセドウ病は寛解しやすいか？	松本雅子医師
甲状腺眼症(TAO)の自覚症状と病態の検討	鈴木美穂医師
24553例の橋本病における甲状腺原発悪性リンパ腫の臨床像 －発症頻度の解析を含めて－	渡邊奈津子医師
妊娠初期にチアマゾールから無機ヨウ素に変更したバセドウ病患者の検討	吉原愛医師
新規ヘテロ接合性サイログロブリン(Tg)遺伝子変異を認めた先天性甲状腺機能低下症の症例	大江秀美医師
バセドウ病に対する同種ATD再投与における無顆粒球症の発症について	小林佐紀子医師
小児でのエコーによる甲状腺結節病変の出現頻度 ～過去3年間1196例の検討～	岩久建志医師

北川亘診療技術部部長

松本雅子医師

鈴木美穂医師

渡邊奈津子医師

吉原愛医師

大江秀美医師

小林佐紀子医師

岩久建志医師

病院からのおしらせ

第54回全日病学会で最優秀演題賞をいただきました

伊藤病院　看護師　丸田佳衣

2012年に行われた第54回全日本病院学会で「手術を受ける患者の看護～不安を持つ患者の関りを通して学んだこと～」の発表を行い、最優秀演題賞を頂きました。

当院では、手術前に少しでも患者様の緊張感を軽減するために、医師、手術室・病棟スタッフが連携して、さまざまな取り組みを行っています。

私の所属する手術室では、手術前に患者様を訪問し、写真付きパンフレットを用いて手術の流れをイメージしていただいていますが、今回、この手術前訪問と手術後の訪問を通して、患者様がどのような不安を抱き、どのような援助を求めていらっしゃるのか、学んだことを発表いたしました。

今後もこれらの取り組みを通して学んだことを日々の業務に生かしていきたいと思います。

伊藤公一院長が筑波大学大学院で講義を行いました

伊藤公一院長は筑波大学大学院 外科学教室の非常勤講師を務めており、毎年、同大学院で講義を行っております。

今年も4月22日に「バセドウ病の治療～専門病院における歴史と現状～」をテーマとして講義を行いました。バセドウ病の治療では、抗甲状腺薬による治療、アイソトープ治療、手術と３つの選択肢がありますが、それぞれについて当院で蓄積してきた臨床データを交えてご説明しました。

今回も医学生だけでなく、関連領域に携わっている医師など多くの受講者が集まり、検査・治療の実際について高い関心を持って熱心に受講されました。

伊藤公一院長が市民公開講座で講演しました

6月15日に沖縄県で開催された睡眠呼吸フォーラム市民公開講座「身近な病気学んでガッテン！」で、伊藤公一院長が講演を行いました。

病気知り 守れ健康
玉城 祥乃氏
生活習慣見直して
伊藤 公一氏
投薬で劇的回復も
益崎 裕章氏
野菜から食べよう
井関 邦敏氏
尿泡立てば受診を
家族の会話が大事

2013年6月20日　琉球日報

この市民講座は、近年沖縄県の平均寿命の延びが鈍化していることを受けて開催され、4名の専門医が身近な病気である生活習慣病、糖尿病、腎臓病、そして甲状腺の病気について、注意すべき点などを講演しました。

伊藤公一院長は甲状腺疾患について、検査方法や治療方法について詳しくご紹介しました。また、甲状腺疾患は特徴的な症状が少ないため、別の病気と間違えられる場合もあり、潜在的な患者数も多い身近な病気であることと、検査の重要性を訴えました。甲状腺疾患は多くが原因不明であり、予防することは難しいですが、ほとんどの場合は血液検査と超音波検査で診断が可能です。定期的に検査を受けて、早期発見から早期治療につなげることが重要となります。

会場には600人の参加者が集まり、講演後には活発な質疑も行われ、盛会のうちに終了しました。

台湾語の「甲状腺の病気がよくわかる最新治療と正しい知識」が出版

帝京大学医学部名誉教授・客員教授 高見博先生と、伊藤公一院長2名の監修による「図解甲状腺の病気がよく分かる　最新治療と正しい知識」（日東書院）の台湾語版が発行されました。

表参道寄り道スポット

CACAO SAMPAKA（カカオサンパカ）

チョコレート文化発祥の地はスペインだとご存じでしたか？16世紀に中南米で硬貨の代わりにもなっていた貴重な果実の種子、カカオ豆を初めてヨーロッパにもたらしたといわれています。メキシコ中央部のアステカの人々から「神々の飲み物」と尊ばれた黒い飲み物は砂糖が加わることで飲みやすくなり、スペインからフランス、やがてヨーロッパ全土へと広まってゆきました。

「カカオサンパカ」はスペイン王室御用達のショコラテリアで、「サンパカ」とはアフリカの赤道ギニアにある古いカカオ農園の名前に由来しています。

南青山店では、スペインから空輸で届く、熟練した職人によって1つ1つ丁寧に作られたチョコレートをカフェスペースで楽しむこともできます。

世界一予約の取れないスペインの3つ星レストラン「エル・ブリ」でパティシエを務めたアルベルト・アドリア氏がプロデュースしたことで知られるお店は、夕方にはスーツ姿の男性の方も来店されていました。

ランチのおすすめは、ソースにチョコレートのコンフィチュールが効いたボカディージョ（サンドイッチ）で、お店の一番人気のカカオソフトクリーム「ジャラッツ」との相性も抜群です。厳選された最高級のカカオパウダーを贅沢に使用したジャラッツは、濃厚なカカオの味わいと爽やかな甘みが印象的です。

店内には他にも天然の素材を使用したフルーティな味わいのコンフィチュールや、自宅でミルクと溶かすことで楽しめるチョコレートドリンク用のフレークなど、魅力的な商品が並んでいます。ぜひ、お好みのチョコレートを見つけてみてください。

ジャラッツ
450円

ハンガリー産フォアグラのボカディージョ
1180円

木いちごとチョコのコンフィチュールとマスカルポーネのバゲット
650円

お店の方から一言

カカオサンパカはスペイン王室御用達のショコラテリアです。南青山店では、チョコレートドリンクやチョコレートを使った斬新でお楽しみ頂けるメニューをカジュアルなセルフサービス方式でご提供しております。

基本DATA

店名	CACAO SAMPAKA(カカオサンパカ) 南青山店
住所	〒107-0062 東京都港区南青山5-5-24
TEL	03-5766-0018
HPアドレス	http://www.cacaosampaka.jp
営業時間	月～金：11:00～22:30(LO22:00) 火：11:00～21:30(LO21:00) 土日祝：9:00～22:30(LO22:00)
定休日	不定休
アクセス	地下鉄表参道駅B3出口　徒歩2分

表参道ランチ&グルメ情報

ドゥ　アンジュ

表参道駅より徒歩5分、青山通りの路地を入ったところに「ドゥ　アンジュ」があります。

白を基調とした店内は可愛いインテリアに囲まれており、まるでパリのカフェにいるような気分になる素敵なお店です。

今人気のパンケーキ・ワッフルでも有名なお店ですが、スイーツ以外にも食事系のパンケーキ・ワッフルもありランチに頂くことができます。

パンケーキ・ワッフルセット(1200円)はスクランブルエッグやソーセージ、お惣菜を2品選べるお得なランチプレートになっています。

スペシャルランチ(1000円)はシェフこだわりの週替りメニューとなっています。各ランチにはサラダとスープがセットになっており、老舗フレンチで修行したシェフが作るカジュアルフレンチ料理と共に契約農家から届く採れたてのお野菜もお楽しみいただけます。

また、人気メニューのパンケーキ・ワッフルは終日頂けるようになっています。

1枚1枚丁寧に焼きあげたパンケーキはフワフワでとろけるような食感！！！！お勧めは「マカダミアナッツソースのパンケーキ」です。

このパンケーキは店員さんがテーブルでソースをかけて下さり、ソースをかけた瞬間ナッツの香ばしい香りが広がります。

今回はスイーツとランチのご紹介となりましたが、ディナータイムも営業していますので診察の待ち時間や診察後にご利用されてみてはいかがでしょうか。

おすすめメニュー

スペシャルランチ

季節のフルーツワッフル

マカダミアナッツソースのパンケーキ

お店の方から一言

ドゥ アンジュでは素材や調理法にこだわり、季節毎にフランス各地のお料理をご用意しております。店内には仏アンティークの置物や家具を取り入れ、まるでパリにいるような空間。ランチ&カフェタイムにはパンケーキやワッフルを、ディナータイムにはシェフ自慢のお料理をワインと共に、気軽便いから記念日までドゥ アンジュのお料理とおもてなしで、素敵なひと時をお過ごしくださいませ。

基本DATA

店名	ドゥ　アンジュ
住所	〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-47-11
TEL	03-6427-7075
HPアドレス	http://www.deuxanges.jp/
営業時間	平日12時～17時　18時～23時 土曜12時～23時 日祝は　12：00～22：00（L.O.21：00）
定休日	月曜日(祝日の場合は翌火曜日)
席数	50席(店内36席テラス14席)
アクセス	表参道駅から徒歩5分

病院からのおしらせ

医事室における「接遇」への取り組み

伊藤病院　医事室　吉岡有紀子

医事室では、患者様に関わる業務を多岐にわたり行っております。

受付業務、会計業務、案内業務、病棟窓口業務、代表電話の取次ぎ等、病院の窓口となるあらゆる所において、温かく、やさしく、いたわる気持ちや思いやりを持って患者様に接することを心がけております。患者様への「接遇」について一人ひとりが常に高い意識を持ち、よりよい応対を目指すため医事室では定期的に勉強会等を行っております。

その取り組みのひとつとして、2011年度より医事室24名全員が「ホスピタルコンシェルジュ 3級」の資格取得を目指すことにしました。「ホスピタルコンシェルジュ」とは、患者様と接する際に求められるコミュニケーション能力と、患者様からの質問にきちんと答えられる知識を併せ持つ人材のことです。そのスキルを証明する試験が「ホスピタルコンシェルジュ検定試験」です。技能認定振興協会の主催により年3回行われ、2013年9月現在14名の医事室職員が3級を取得いたしました。

受験するにあたり学んだことは、患者様のお気持ちや病状を考慮した接遇応対力です。患者様の立場に立ち、患者様が何を求めていらっしゃるのかを考え、適切な応対を心がけていくことが改めて必要だと感じました。また、医療保険制度や医療費などに関する知識を見直し、日頃の業務に活かすこともできました。

「甲状腺を病む方々のために」の理念のもと、今後もこの資格を活かし、病院の顔として明るい笑顔で患者様の不安を取り除き、安心して受診していただけるよう努めてまいります。

採血用針を変更いたしました

この度、当院では、より安全な採血を目指し「ルアーアダプター付きセーフタッチPSVセット・ホルダー付採血用針」を導入することになりました。

これからも、より安全な採血をお受けいただくために改善活動を続けて参ります。

榛名湖リゾートトライアスロンに参加しました！

伊藤病院トライアスロン部が、7月21日に群馬県高崎市で開催された「第1回榛名湖リゾート・トライアスロンin群馬」に参加しました。

今回も2010年のひわさうみがめトライアスロンに続き、1人1種目ずつで襷をつなぐリレー部門に2チームエントリーしました。大会は、標高1000mを越える榛名湖畔で開催され、スイムでは普段泳ぐことが出来ない榛名湖を1.5Km、続くバイクは榛名富士を周回し、登坂6回を含む40Km、最後のランも高低差40mの激坂を含む10Kmと、非常にタフなコースでしたが、エントリーした2チームは、普段からのチームプレーを活かして、リレーでつなぎました。

応援団の熱い声援の中、29チーム中8位と21位の結果で両チームとも無事完走することができました。

ノコオーノ　表参道本店

海外のブランドショップが建ち並ぶ表参道ですが、メインの通りを少し入ったところにも様々なファッションブランドが建ち並んでいます。

ノコオーノ表参道本店はアートブリーツで知られるファッションデザイナー 大野ノコ氏のブランド「NOKO OHNO」のお店。ストールをはじめ多彩なブリーツのファッションアイテムでおしゃれを楽しまれてはいかがでしょうか。

店名	ノコオーノ　表参道本店
住所	150-0001　東京都渋谷区神宮前4-4-12
TEL	03-3402-8682
FAX	03-3402-8681
HPアドレス	http://noko-ohno.com/

伊藤病院 連携施設

大須診療所からのお知らせ

9周年を迎えて

大須診療所　事務長　高田博史

平成16年6月に開院した大須診療所も、今年で9周年を迎えました。

ビル内診療所から、2年前に診察室の増設とともに木曜日～土曜日は2診療体制となり予約枠も増えました。また、重症のバセドウ病や甲状腺がんの治療に不可欠なアイソトープ検査・治療設備を備えた新診療所に移転したことで甲状腺専門医療機関として診療機能の向上に務め、幅広い検査治療を行うことができるとともに手術件数の増加をはかっております。診療所内にも、お子様向けの絵本や観賞魚を設置し、より快適にお過ごしいただけるよう患者様から頂いたご意見を取り込めるよう努めてまいります。今後も、医師、看護師、検査技師、受付スタッフが連携して丁寧かつ迅速な対応を心がけていきます。

また、来年の10周年を迎えるに当たり、より患者様に信頼される診療所を目指して、スタッフ一同日々精進し努力していく次第です。今後ともよろしくお願いいたします。

大須診療所の統計情報

大須診療所は、伊藤病院が昭和12年の開設以来、構築してきた甲状腺疾患専門診療を中京・東海地域の患者様にもご提供したいとの想いから、平成16年に開設しました。

この度、当診療所を受診される初診患者様が、どちらの地域からいらっしゃっているか、分析してみましたのでご紹介します。

県外からご来院される患者様が16%でした。そのうち半数が三重県で、残る半数は岐阜県とその他の地域で、滋賀県、石川県、大阪府などが含まれます。

同様に、初診患者様に当診療所へお越しいただく「きっかけ」についてお伺いした結果をまとめてみました。その結果、4割以上の方がホームページを1つのきっかけにご来院いただいていることが分かりました。続いて医師・医療関係者からのご紹介が27%で、他の医療機関からのご信頼もいただいている事が分かりました。

大須診療所をお知りになったきっかけ(2013年4月～6月、複数回答あり)

きっかけ	4～6月合計	%
ホームページ	353	43.9%
医師や医療関係者の紹介	215	26.7%
知人の紹介	93	11.6%
家族の紹介	65	8.1%
電車等の広告	55	6.8%
書籍	7	0.9%
近くの専門病院	5	0.6%
TV番組	3	0.4%
駅看板	2	0.2%
その他	7	0.9%
合計	805	100%

過去のデータと比較してみましても、愛知県外からいらっしゃる方の比率が年々増加し、さらに遠方からご来院される方も増えていることから、甲状腺疾患についてのご理解を深めていただくために、ホームページが非常に大切な情報提供の手段であることが分かりました。

今後も情報発信や掲載情報の充実を目指すとともに、甲状腺疾患専門診療施設として他の医療機関との連携を深めるべく、取り組んで参ります。

伊藤病院1Fに当診療所への直通電話を設置しております。
ご質問などございましたら、お気軽にお電話ください。

大須診療所
住所：愛知県名古屋市中区大須4-14-59
電話：052-252-7305　FAX：052-252-7308　HP：http://osu-shinryoujyo.jp/

やましたクリニックのご紹介 第1回

やましたクリニックは、福岡県において甲状腺・副甲状腺の専門診療を行っている当院の連携施設です。甲状腺疾患を病む方々のために、適切な診療をご提供すべくお互いに切磋琢磨しておりますので、ご紹介いたします。

医療法人 福甲会 やましたクリニックの山下弘幸です。このたび伊藤公一院長より、Voiceに当クリニックの紹介欄を設けていただきありがたく思います。

山下院長(右から2人目)と伊藤院長

我が国の甲状腺疾患の臨床や研究は3大病院(東から伊藤病院、隈病院と野口病院)の功績によるものが大きいと考えています。これらの病院は創立後80年近く発展し伝統を築いています。まず、3病院の仲間入りできることを目標に職員一同が努力していることをお伝えします。開院時の挨拶として、"九州大学腫瘍外科を経て、平成7年より11年間別府の野口病院(平成11年より副院長として)で甲状腺・副甲状腺を患った患者さんの内科・外科治療(年間約400名の患者さんの手術を担当)を行なってきました。これまでの臨床経験を生かして、甲状腺・副甲状腺疾患の専門医療で貢献したいと考えています。"と掲載しました。当初はスタッフ5名の小さなクリニックに患者さんが来てくれるだろうか?という不安と少しのんびりできるかも知れないという気持ちが交錯していたように覚えています。クリニックで外来診療を行い、隣の原三信病院で手術をさせていただいていましたが、予想以上に外来患者さんや手術患者さんが増加し、上記の体制では対応できなくなりました。福岡市は過剰病床地区で基本的には新たに病床を持つことは非常に困難ですが、当施設の診療実績を評価していただき、平成24年1月有床診療所を開設することができました。5名(外科4名と内科1名)の常勤医と6名の非常勤医師で診療を行っています。開院後の1年間で748名の手術(60%が甲状腺癌症例)を担当することができましたので、まずまずのスタートをきることができたと考えています。

開院時より伊藤病院の院長をはじめとするスタッフの方々にはいろんな情報をいただき、参考にさせていただきました。患者さんが関東と福岡間で転居する機会も多く、お互いに患者さんを紹介しあっています。今後も交流を続けさせていただければと願っています。

医療法人 福甲会
やました(甲状腺・副甲状腺)クリニック
〒812-0034 福岡市博多区下呉服町1-8
http://www.kojosen.com/index.html
TEL:092-281-1300 FAX:092-281-1301

検査のお話 CT検査について

伊藤病院 内科 大江秀美

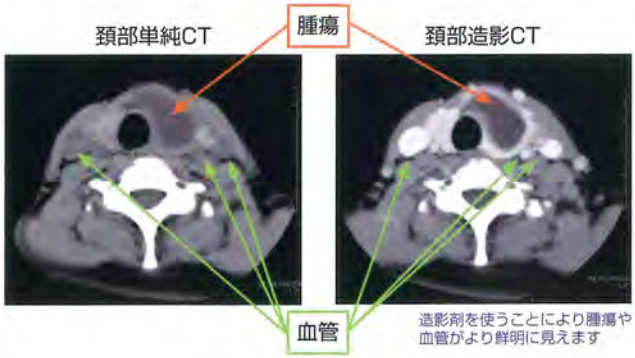
CTとはコンピューター断層撮影(computed tomography)の略で、X線(放射線)、検出器、コンピューターを利用して体の輪切りの断面図を画像として描き出し、痛みも伴わず体の内部の状態を把握することができる検査です。病変の部位のみならず、病変とその周りの組織(気管や血管など)との関係を観察することができます。

CT検査を行う際、円筒型の装置の中を患者様が横になって寝ている台が前後に移動する間に撮影します。画像がぶれることがないように撮影中は短時間の息止めをして検査を行います。所要時間はおよそ10～20分程度です。

当院では主に甲状腺腫瘍の広がりや副甲状腺腫瘍の部位確認、甲状腺悪性腫瘍の転移の検索時に行います。頚部に限局する腫瘍では超音波検査も役立ちますが、縦隔(胸部)に腫瘍やリンパ節腫大がある場合は、より広い範囲で観察ができるCT検査のほうが有用です。

非イオン性ヨウ素造影剤を注射しながら撮影する造影CT検査を行うことがあります。下の図のように造影剤を使用することで腫瘍や血管が鮮明になり、病変自体や浸潤(しんじゅん)・癒着(ゆちゃく)といった病変と周りの関係を正確に把握することができます。しかし、造影剤は稀に体に合わない方もいますので、事前に問診や血液検査で判断します。

CT検査は放射線を使う検査ですので、妊娠中の方や妊娠の可能性のある方は事前にお知らせいただく必要があります。また、検査の妨げになりますので、撮影部位近辺に金属(義歯やアクセサリー等)がある場合は外し、検査着に着替えて頂く場合もあります。



甲状腺の病気 第5回 バセドウ病の手術

伊藤病院　外科　鈴木章史

バセドウ病の治療の3本柱の一つ、手術療法について説明致します。

現在、日本ではバセドウ病治療の第一選択は抗甲状腺薬です。当院でも同様で、バセドウ病患者様の82.7%が抗甲状腺薬で治療を受けています。手術は僅か3%ですが、下記のような方が手術の適応となります。

＜手術適応＞

①大きな甲状腺腫　②抗甲状腺薬で治りにくい人　③薬の副作用がでる人　④腫瘍性疾患を合併している人　⑤抗TSH受容体抗体(TRAb)値が高く、早期妊娠を希望　⑥高度の眼症状　⑦早く治したい人

＜術式の変遷：甲状腺亜全摘から全摘へ＞

以前は、手術後に内服の必要のない甲状腺機能正常化を目標としていたため、甲状腺の一部を残す手術(甲状腺亜全摘術)をしていました。もちろん手術された皆さんが内服薬から解放されれば理想的ですが、当院で工夫を重ねてきた結果、亜全摘後に甲状腺機能が正常となる人は30%に過ぎず、機能低下となる人は52%、残存甲状腺が腫大して再び機能亢進となる(再燃する)人は18%もいることが判明しました。

バセドウ病の内服薬(メルカゾールやチウラジールといった抗甲状腺薬)で副作用が生じ、手術適応となった方もいますので、再燃した場合には、内服薬は使用できません。また、バセドウ病眼症のためにアイソトープ治療が難しく手術となった方もいますが、再手術は癒着(術後に組織同士がくっついたりすること)があり、反回神経という声帯を動かす細い神経を痛める可能性が高まります。

再燃を減らす方法を検討した結果、亜全摘の時に残す甲状腺の量(残置量)が、術後の甲状腺機能に一番影響することが分かりました。そのため、理想の残置量を求める工夫を重ねて参りましたが、再燃を減らすために残置量を減少させると、それ以上の割合で甲状腺機能低下に陥ってしまうため、適正な残置量を求めることが出来ませんでした。もし、受験や就職、妊娠希望時、大切な仕事の時などに再燃した場合、その人自身にかなり大きな影響を与えてしまう可能性が高く、2010年以降、当院では、術後に再燃しないようにする手術(＝甲状腺全摘あるいは準全摘)を標準術式としました。

全　摘：甲状腺全部を切除する
準全摘：甲状腺をわずかに残し(1g以下)ほとんど全部切除する
亜全摘：甲状腺を2/3以上切除する

＜甲状腺(準)全摘術の利点、欠点＞

甲状腺全摘術を行った場合、一生涯、甲状腺ホルモン薬を内服しなければなりません。また、前頚部に傷がつくことと、わずかな確率で副甲状腺機能低下(ビタミンDやカルシウム剤の内服が必要)、声帯麻痺の可能性があります。

しかし、甲状腺機能は安定し、安心して妊娠・出産も可能となります。検査の頻度は減少し、専門医でなくても経過観察が可能となります。

＜周術期＞

通常は手術2日前に入院し、同日甲状腺機能をチェックします。手術は全身麻酔で行い、甲状腺腫の大きさ等によりますが、手術時間は約1-2時間を想定しております。術後1日目から食事が始まり、4日目に退院となります。退院後2-4週間程で外来受診の予定です。

＜お願い＞

・安全に手術を行うため、術前に甲状腺機能を可能な限り正常化させます。甲状腺機能がかなり高い場合には、早めに入院して頂くこともあります。そのため、医師の指示通りに抗甲状腺薬を内服して下さい。
・喫煙は、①甲状腺機能への悪影響　②バセドウ病眼症の危険因子　③全身麻酔に伴う様々な合併症の危険因子　です。

是非、"禁煙"をお願い致します。

バセドウ病の手術における入院生活スケジュール(全身麻酔)

	1日目	2日目	3日目(手術当日)			4日目	5日目	6日目	7日目
	入院初日	手術前日	手術前	手術後		手術後1日目	手術後2日目	手術後3日目	退院
検査・処置等	・採血 ・持参薬の確認 ・手術予定時間のご連絡	・手術室看護師の術前訪問	・点滴の管を挿入	・間欠的空気を装着(深血栓症予防 ・点滴開始 ・ベッド上で安静、以降 ・手術中に尿の	圧迫機部静脈のため) 3時間歩行可 管挿入	・採血、点滴 ・痛み止め・甲状腺ホルモン薬等の服用 ・ストレッチ体操開始	・傷の管を抜きます	・採血	・退院指導 ・傷口保護テープの交換方法の説明 ・退院後のお薬説明
飲水			・入室予定3時間前から飲水禁止	・通常、手術後に飲水可	3時間				
食事	普通食	21時以降禁食	禁　食			術後食開始	術後食	普通食	普通食

←――― 禁　煙 ―――→

※詳しくは入院時にご説明いたします。

健康に関する記事

インフルエンザについて

伊藤病院　内科　亀田俊明

今年もインフルエンザが流行する季節がやってまいります。

毎年日本では1000万人以上がインフルエンザに罹患しており、昨年度は1274人が死亡しています。

死亡するのは、ほとんど高齢者、基礎疾患がある体力のない方ですが、健常人でも希に命を落としたり、肺炎への移行、後遺症を残す脳症を発症するケース等もあります。

命を落とさなくとも、高熱、咳、咽頭痛、関節痛等の強い症状が現れ、辛い思いをします。では、どうしたらよいのでしょう？

最近は治療薬としてタミフル、リレンザ、イナビルなどの抗インフルエンザ薬が使われ、感染早期の治療で症状の緩和や早期回復などが望めるようになりました。

しかし、インフルエンザはどんどん変異するウィルスであり、毎年新型や強毒性に薬が効くのか議論されていますし、内服が遅れると効果はほとんどなくなってしまいます。

やはり、どんな感染症でも予防が第一なのです。

インフルエンザの予防と言えば、すぐに予防注射を思い起こすと思います。前述した様に、インフルエンザは変異しやすいため、その年流行する型を予想してワクチンを作りますが、万能ではありません。有効率は60～90%と言われています。それでも自分への感染、周囲への感染を防ぐ意味では非常に大切なことです。

しかし、なんと言っても第一の予防は、手洗い、うがい等の一般予防なのです。

下記を注意して健康な生活を送りましょう。

★インフルエンザ予防法★

1）流行前のワクチン接種

インフルエンザワクチンは、感染後に発病する可能性を低減させる効果と、インフルエンザにかかった場合の重症化防止に有効と報告されています。

2）飛沫感染対策としての咳エチケット

インフルエンザの主な感染経路は咳やくしゃみの際に口から発生される小さな水滴（飛沫）による飛沫感染です。したがって、飛沫を浴びないようにすればインフルエンザに感染する機会は大きく減少します。普段から皆で咳エチケットを守りましょう。

①咳やくしゃみを他の人に向けて発しないこと
②咳が出るときはできるだけマスクをすること
③手のひらで咳やくしゃみを受け止めた時はすぐに手を洗うことなど

3）外出後の手洗いうがい等

流水・石鹸による手洗いは手指など体についたインフルエンザウイルスを物理的に除去するために有効な方法であり、インフルエンザに限らず接触感染を感染経路とする感染症対策の基本です。インフルエンザウイルスはアルコールによる消毒でも効果が高いため、アルコール製剤による手指衛生も効果があります。（図参照）

うがいは、口腔やのどを洗浄して、ウイルスや細菌、ホコリなどを粘液と一緒に除きます。

また、うがいを行う事によりのどを適度に刺激し、粘液の分泌や血行を盛んにしたり、のどの潤いを保って、繊毛運動の衰えを防ぐという効果が考えられます。

正しいうがいの手順を説明します。

①水を口に含む
②少し強めに「ブクブク」とゆすいで吐き出す
③水を口に含み上を向き喉の奥で「ガラガラ」とうがいをする
　※15秒が目安です
④もう一度③を繰り返す

これらを参考に手洗いうがいを心がけましょう。

※ヨウ素が含まれているうがい薬（商品名：イソジンガーグル等）を使用すると甲状腺機能異常を引き起こす可能性があります。特に慢性甲状腺炎（橋本病）と診断されている方は注意が必要です。うがいは水道水でも十分効果があります。どうしてもうがい薬を使用されたい場合はヨウ素が入っていないうがい薬（商品名：アズノール・ハチアズレ等）がございますので医師にご相談下さい。

4）適度な湿度の保持

空気が乾燥すると、のどの粘膜の防御機能が低下し、インフルエンザにかかりやすくなります。特に乾燥しやすい室内では、加湿器などを使って適切な湿度（50～60%）を保つことも効果的です。

5）十分な休養とバランスのとれた栄養摂取

体の抵抗力を高めるために、十分な休養とバランスのとれた栄養摂取を日ごろから心がけましょう。

6）人混みや繁華街への外出を控える

インフルエンザが流行してきたら、特にご高齢の方や基礎疾患のある方、妊婦、疲労気味、睡眠不足の方は、人混みや繁華街への外出を控えましょう。やむを得ず外出して人混みに入る可能性がある場合には、ある程度の飛沫等を防ぐことができる不織布（ふしょくふ）製マスクを着用することはひとつの防御策と考えられます。ただし、人混みに入る時間は極力短くしましょう。

※不織布製マスクとは

不織布とは「織っていない布」という意味です。繊維あるいは糸等を織ったりせず、熱や化学的な作用によって接着させて布にしたもので、さまざまな用途で用いられています。

手の甲側　　手の平側

赤色で示した部分が洗い残しの多いところ。アルコールで消毒する際も、同じ部分を意識してすりこむように心がける。

参考資料　メディカルオンライン「健康リスクを知る・防ぐ　冬場に多い感染症」

入職1年生から発信 部署のご紹介

「各部署のご紹介」として、2011年に入職した職員より、入職してから携わってきた業務を簡単に紹介させていただきます。前回に引き続き、9月号はシステム管理室・看護部　外来をご紹介しますので、ご覧ください。

事務部システム管理室

伊藤病院　事務部システム管理室　福田達徳

前職は電子カルテのプログラム開発に携わっておりましたが、2011年5月にシステム管理室に入職した福田達徳です。早いもので3年目を迎えました。転職時の理由である『より臨床に近い環境』にて従事する、私が所属するシステム管理室をご紹介させていただきます。

当院は、2005年1月導入の電子カルテをはじめとして多くのシステムが稼働しております。システム管理室の目標は、ご来院いただいた患者様と診療スタッフへ安全で分かり易く円滑な医療サービスの情報基盤を提供できますように、日々システムの安定稼働や機能向上に努めております。直接、患者様が触れられる当院のシステムには、院外からも待ち人数が確認できる『携帯確認くん』があります。本システムはシステム管理室が企画、設計を行い、ご来院時の負担軽減に繋がると思い配置しました。取扱説明書が院内6カ所の確認くんにございます。まだご利用なさってない方は是非ご利用になってみて下さい。

私の最近の趣味は、料理です。特に最近好んで作っているのは、味噌を使った料理です。当院の診療連携施設である大須診療所へ出張の際に食べた、ご当地メニューの味噌煮込みや味噌カツに使われている八丁味噌という甘辛味噌がお気に入りです。出張の度、いろいろなブランドの味噌を購入し独自ブレンドして楽しんでいます。

看護部 外来

伊藤病院　看護部 外来　川内和歌子

現在、外来では医療相談室を含め看護師29名が働いています。

診察室には1診察室につき1名の看護師が診察の介助についています。診察がスムーズに進むように患者様の呼び入れや検査のご案内もしています。そして、患者様の待ち時間が少しでも短くなるよう、外来中央という場所で全ての診察室の調整を行っています。

地下1階の医療相談室では、疾患・治療・検査などのご説明や患者様の不安に思っている事など様々な相談を行っています。

また、細胞診検査の介助も行っています。検査に対する患者様の不安や恐怖心を少しでも軽減できるよう、安全かつ丁寧な介助を心がけています。

私の趣味は散歩です。色んな場所を散歩すると季節を感じることが出来て、気分もリフレッシュできます。遠い場所ではなくても都内の近場で散策できるので、気軽に楽しめます。今の季節ですと神宮外苑前などの銀杏並木がきれいで、秋の涼しさと匂いを感じることが出来、心が落ち着きます。

看護部では今年4月にユニホームを変更しました。カラフルなユニホームは患者様から「明るい印象になった」との声を頂いています。今後も患者様が安心して診療が受けられるよう、努めて参りたいと思います。

年末年始の診療について

年末年始の休診につきまして、今年は右記の通りとなります。

通常は12月30日～1月4日が休診ですが、今年は12月29日・1月5日が日曜日となるため、変更させていただきます。予めご了承くださいますよう、お願い申し上げます。

2013年12月27日(金)通常診療
12月28日(土)午後休診
12月29日(日)～2014年1月5日(日)休診
1月　6日(月)通常診療